

「運動・スポーツの実施と文化振興に関するアンケート」実施報告

スポーツ推進局と環境生活部文化振興課が実施しました「運動・スポーツの実施と文化振興に関するアンケート」について、785名の方からご回答をいただきました。
アンケート結果について、下記のとおりまとめましたので、ご報告します。

(1) アンケート実施期間

平成27年9月29日(火)から平成27年10月13日(火)

(2) アンケート回収状況

対象者数 1,214名

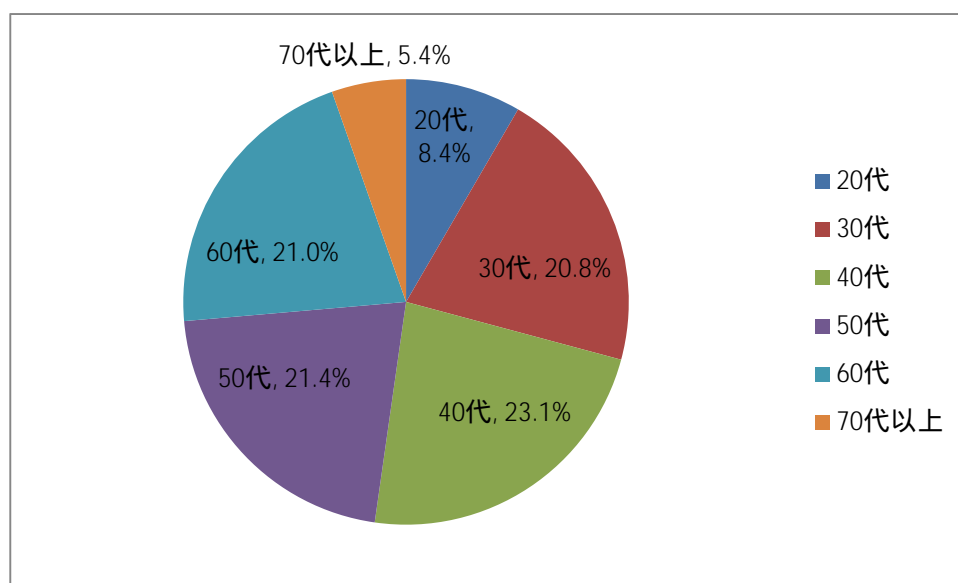
回答者数 785名

回答率 64.7%

(3) 回答者属性

性別	男性	女性	計
回答者数	415	370	785
構成比	52.9%	47.1%	100.0%

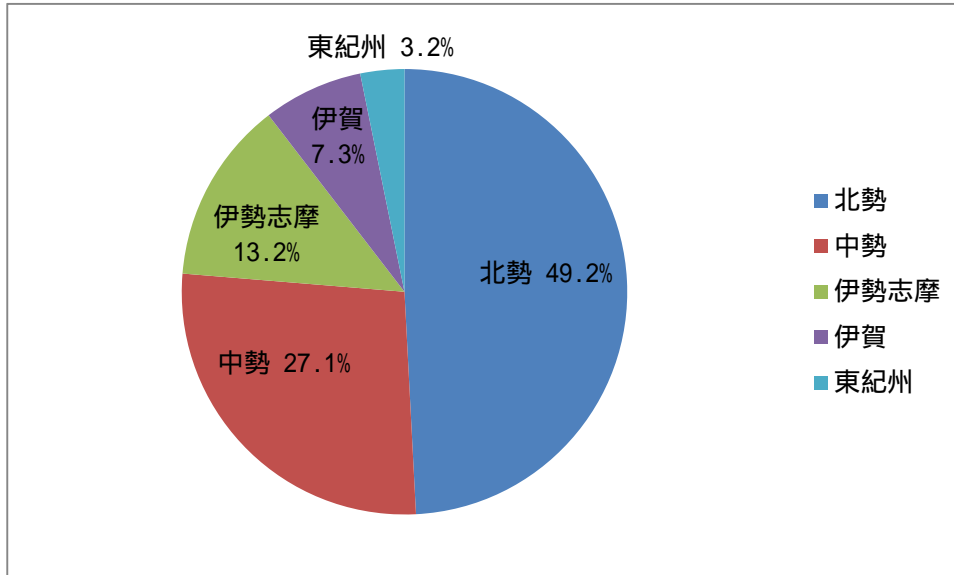
年代別	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
回答者数	66	163	181	168	165	42	785
構成比	8.4%	20.8%	23.1%	21.4%	21.0%	5.4%	100.0%
うち男性	25	60	95	93	111	31	415
うち女性	41	103	86	75	54	11	370



割合は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合があります。

地区別	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人数	386	213	104	57	25
割合	49.2%	27.1%	13.2%	7.3%	3.2%

【地域別】回答者の割合



(4) アンケート集計結果

Q1 運動・スポーツについて

あなたは、運動やスポーツが好きですか。

「する」の「みる」の「好き」との回答が最も多く 47.3% (対前年度 + 4.8%) でした。一方で、「する」の「みる」の「好きではない」と回答した人は 13.4% (同 + 0.2%) となりました。

Q2 運動・スポーツの実施回数について

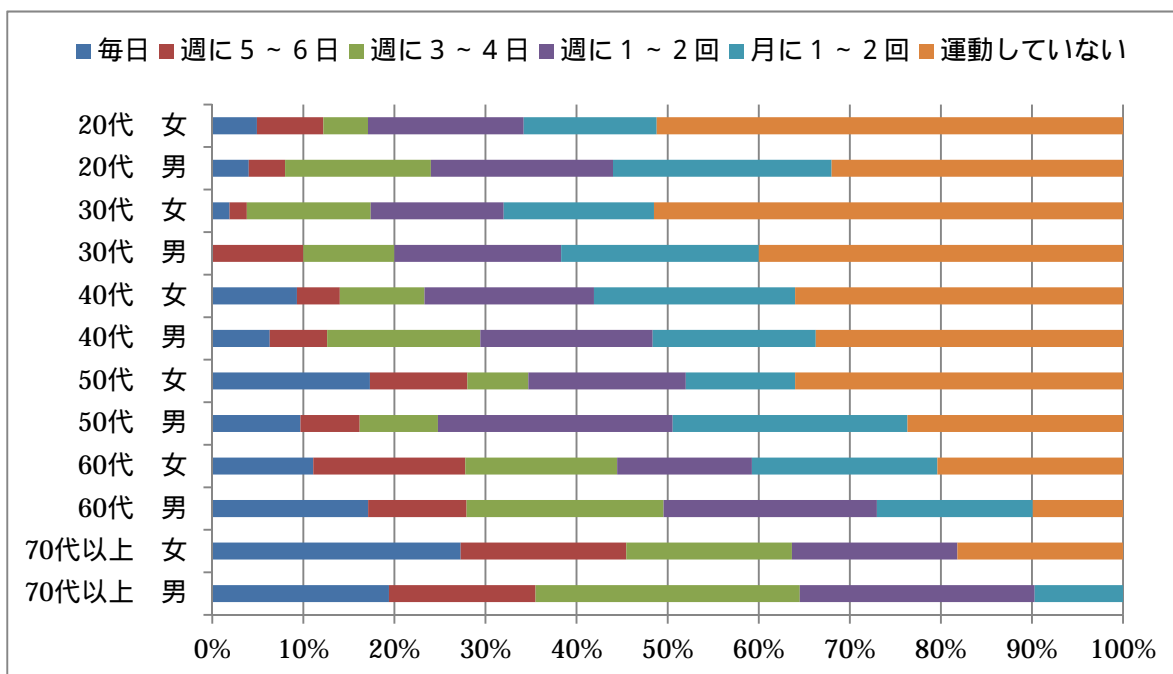
あなたは、運動やスポーツ(ラジオ体操・ウォーキング(散歩)・自転車(徒歩)通勤など日常生活において運動を心がけていることや、ジョギング・水泳・ゴルフ・テニス・バレーボールなどすべて)をどの程度実施していますか。

毎日運動しているとの回答は 9.6% (対前年度 + 3.3%)、週に 5~6 回との回答は 8.2% (同 + 3.1%)、週に 3~4 回との回答は 13.6% (同 + 1.8%) と増加した一方で、週に 1~2 回以上は 19.5% (同 10.1%) と減少し、週 1 回以上の運動やスポーツをしている人の割合は 50.8% (同 2.0%) となりました。

なお、週 1 回以上の運動やスポーツを実施している人の割合は、年代別でみると、20 代から 40 代において 50% を下回っており、50 代以上は、加齢とともに実施している人の割合が高くなる傾向があります。

また、週に 1 回以上の運動をしていない(月に 1 回以上または運動していない)との回答は、49.2% (同 + 2.0%) となりました。

【年代別・男女別】運動・スポーツ実施率

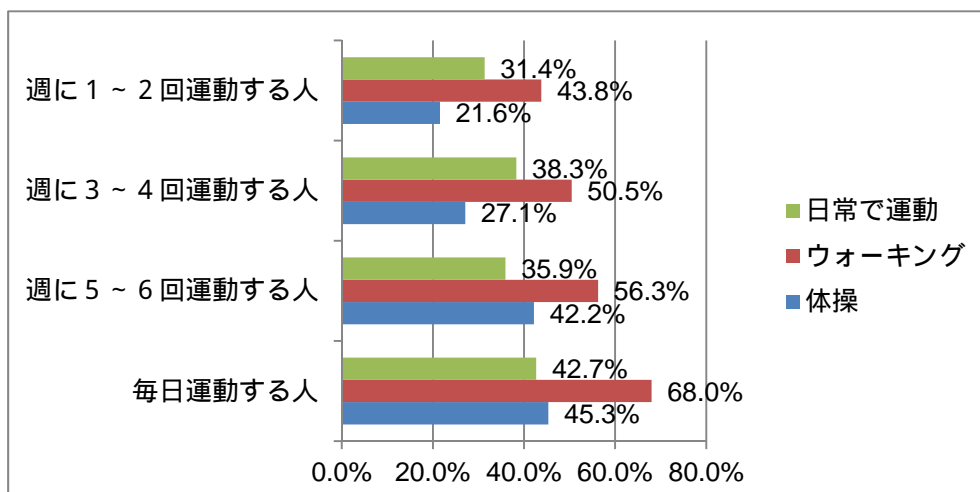


Q3 運動・スポーツの内容について

ウォーキング（散歩・ハイキングなどを含む）との回答が最も多く 50.3% でした。毎日運動していると回答した人の 68% が実施しており、他の運動実施頻度の人よりも、実施割合が高くなっています。

また、体操（ラジオ体操、エアロビクスなど）、日常生活において、極力歩くこと又は運動することを心がけて実践している（自転車（徒歩）通勤など）についても、毎日運動していると回答した人の実施割合が、他の運動実施頻度の人よりも高くなっています。

運動実施回数別の実施種目

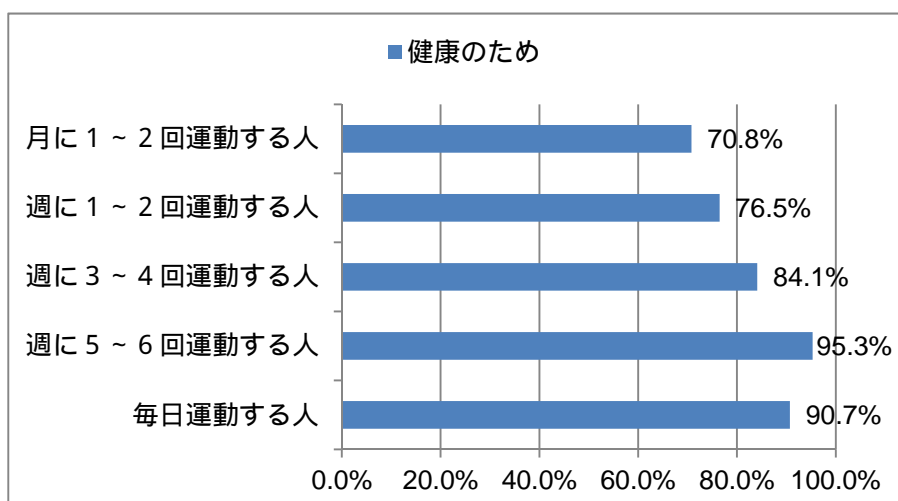


Q 4 運動・スポーツをする理由について

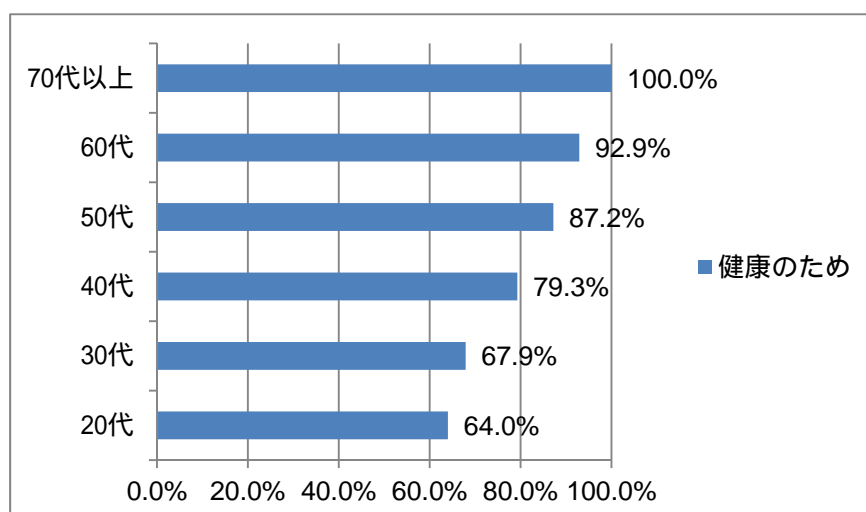
健康のため との回答が最も多く、80.7%（対前年度 5.6%）、次いで 楽しみや気晴らし との回答が47.7%（対前年度 8.9%）でした。

運動実施回数別で見ると、運動する回数が多い人ほど、健康のため と回答した人の割合が高くなる傾向があります。

健康のために運動・スポーツを実施すると回答した人の割合



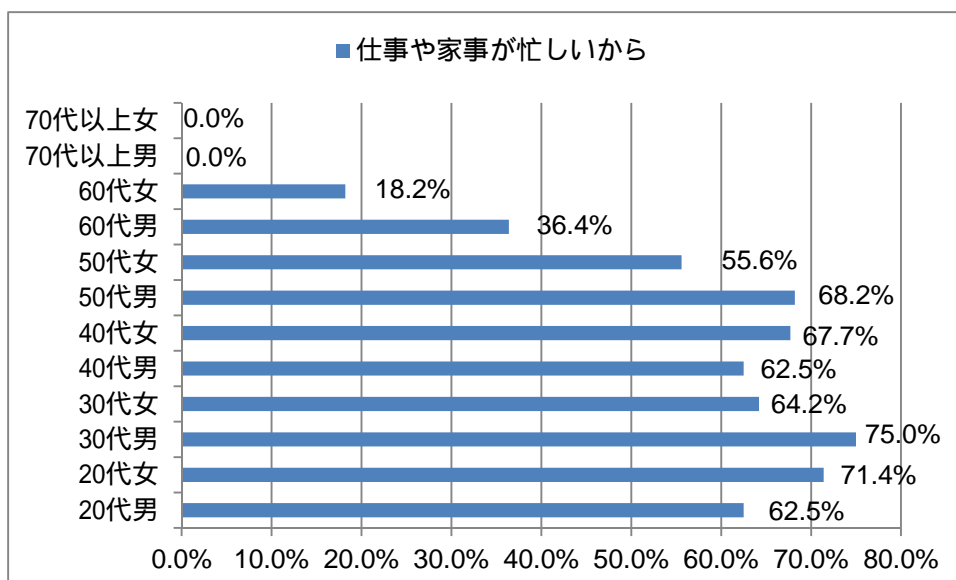
また、週1回以上運動やスポーツをする人が運動等をする理由として、健康のため との回答した人の割合は、70代以上では100%、60代では92.9%、50代では87.2%となっており、年齢が高いほど健康を意識して運動やスポーツに取り組んでいる傾向があります。



Q 5 運動・スポーツをしない理由について

仕事や家事が忙しいから との回答が最も多く 61.6%（対前年度 3.1%）で、次いで 運動やスポーツが好きではない との回答が 20.2%（同+1.2%）となりました。

年代別でみると、20代から50代では、仕事や家事が忙しいから と回答した人は60%を超えています。

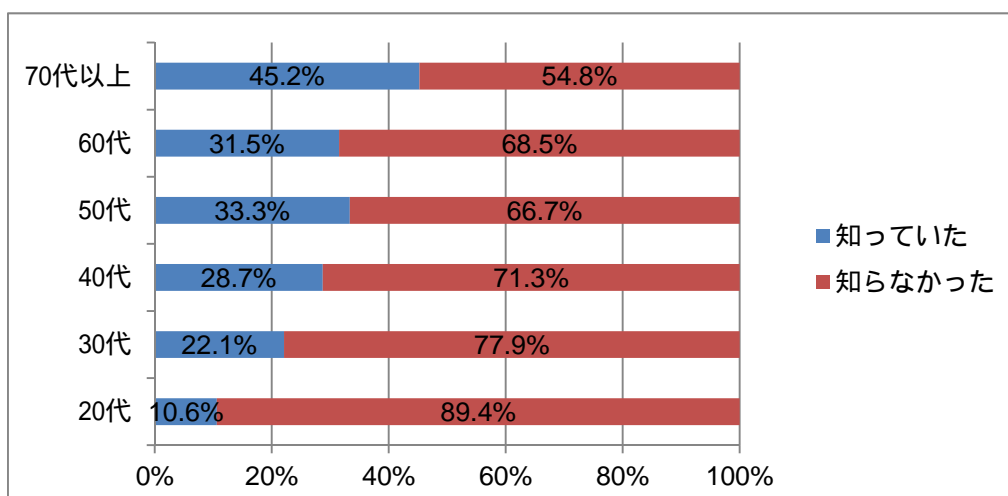


Q 6 平成 33 年国民体育大会（国体）について

国体の開催機運を盛り上げるための「愛称・スローガンを募集していたこと（4月18日～5月30日）」や「国体マスコットキャラクターの募集をしていること（9月6日～10月30日）」をご存知ですか。

知っていた と回答した人は、28.3%、知らなかった と回答した人は、71.7%でした。

年代別でみると、20代の 知っていた 割合が一番低く、年代が上がるにつれて、知っていた と回答した人の割合が高くなる傾向がみられました。



Q7 平成33年国体を知るきっかけについて

募集告知をしていた及びしていることをどのようにして知りましたか。

「知っていた」と回答した人の中で、新聞 40.1%、テレビ 32.9%、チラシ・パンフレット 26.1%の順で、平成33年国体を知ったという割合が高くなっています。

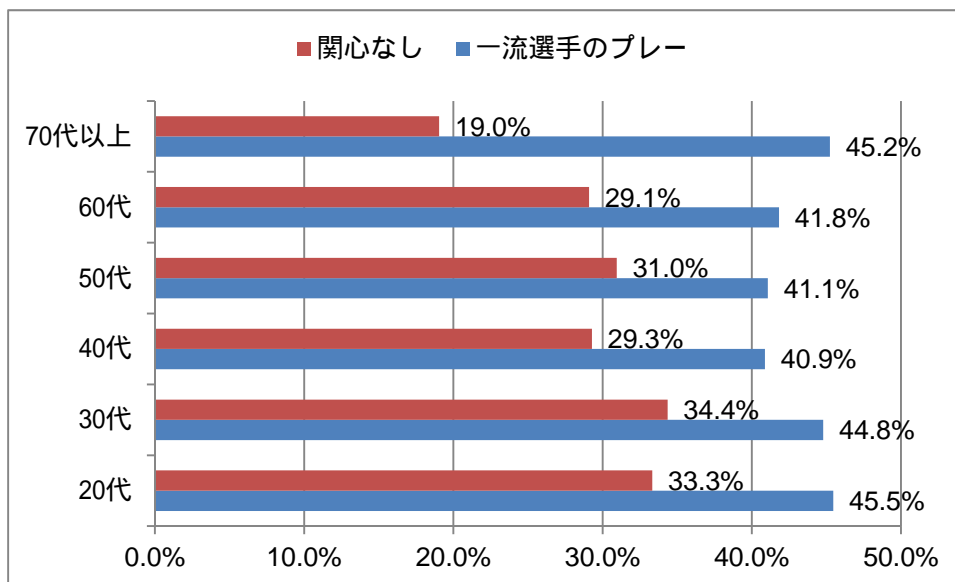
Q8 国体への関心について

三重県で開催される国体に向けて、こういったものに関心・興味がありますか。

一流選手のプレーを競技場で観戦 との回答が 42.5%と最も高い一方で、興味、関心がない との回答が 30.4%となっています。

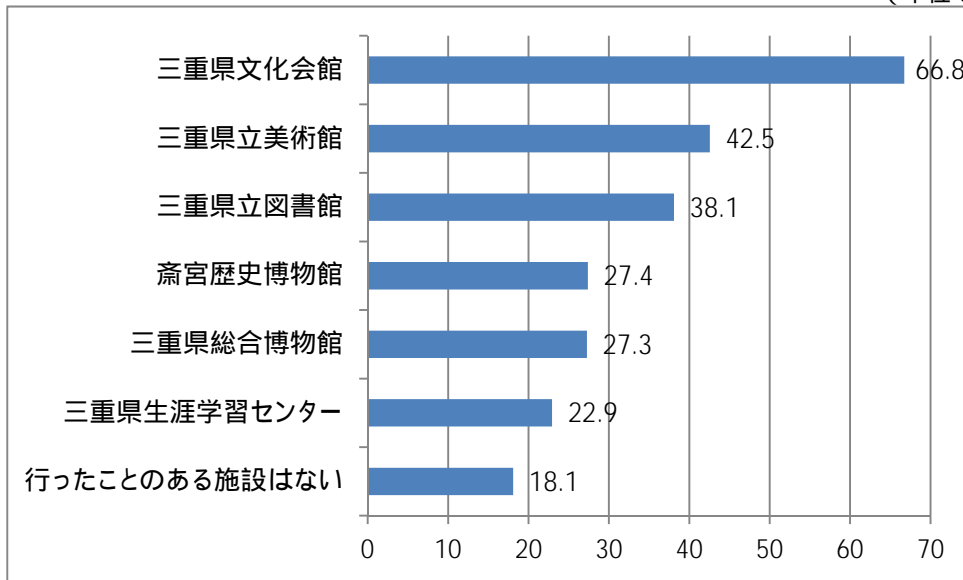
一流選手のプレーを競技場で観戦 と回答した人の割合は、20代から70代以上の各年代において、40%を超えています。

一方で、関心がない と回答した人の割合は、70代以上を除いて、30%前後となっています。



Q 9 これまで行ったことのある県立文化施設について
 あなたがこれまでに行ったことのある施設はどれですか。

(単位：%)



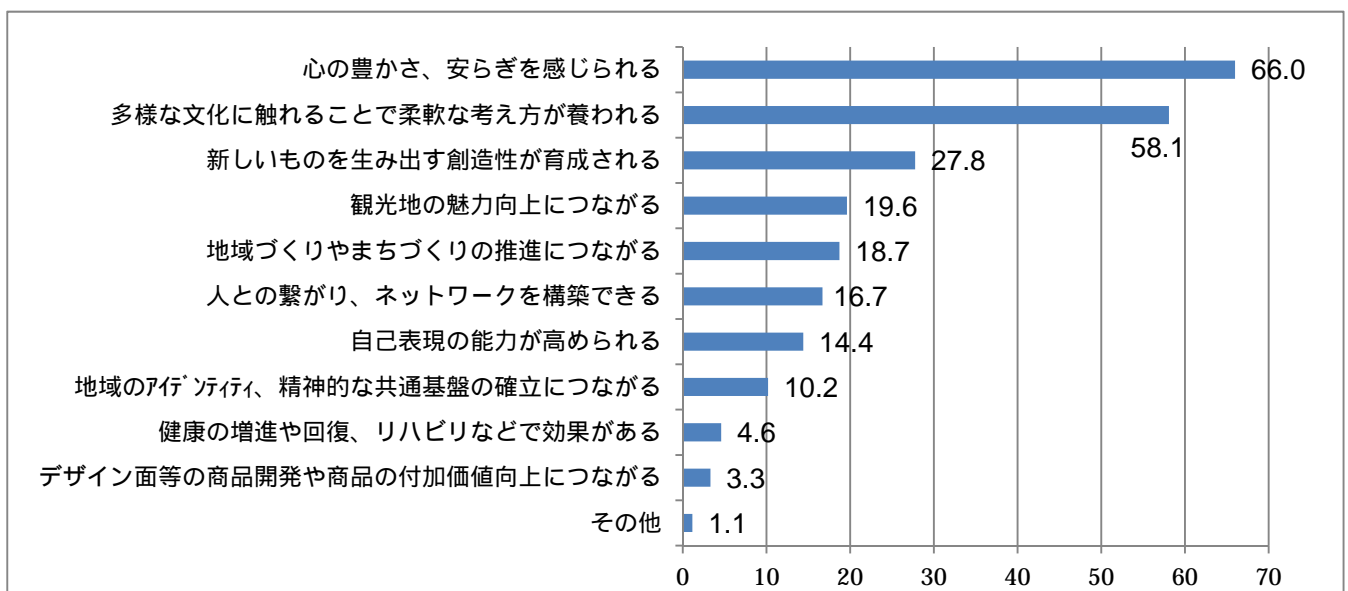
「三重県文化会館 (66.8%)」が他の県立文化施設と比べて特に多くなりましたが、同館ではコンサートや演劇などさまざまな公演が行われており、訪れる機会が多いのではないかと思います。一方で、「行ったことのある施設はない」も2割弱ありました。

なお、回答傾向は、「新しいみえの文化振興方針」策定の参考とするため、平成25年9月に実施した「今後の文化行政のあり方に関する県民意識調査」(以下「平成25年度文化振興県民意識調査」)の結果とほぼ同じでした。

Q 10 文化によってもたらされる効果について

「文化」によってもたらされる効果として、あなたが考えるものは次のうちどれですか。

(単位：%)



「心の豊かさ、安らぎを感じられること」(66.0%)と「多様な文化に触れることで柔軟な考え方が養われること」(58.1%)が特に多くなりました。

これは、平成 25 年度文化振興県民意識調査の結果と同じですが、「新しいものを生み出す創造性が育成されること」(27.8%)については、約 8 ポイント回答率が上がりました。

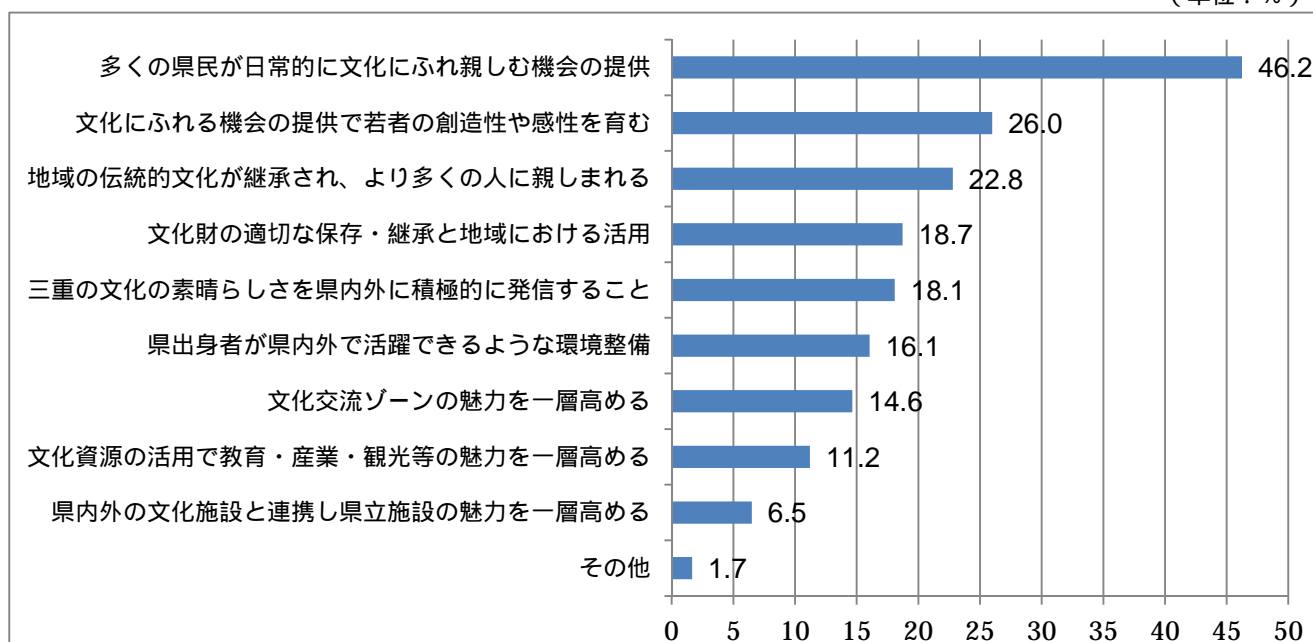
なお、「その他」の内容は次のとおりでした。

- ・ 平和への貢献
- ・ 地元の伝統を継続する絆
- ・ 民度の向上

Q 1 1 県が、今後、力を入れるべき文化振興施策について

県は今後どのような文化振興施策に力を入れるべきだと思いますか。

(単位：%)



「多くの県民が日常的に文化にふれ親しむことができるような機会を提供すること」(46.2%)が特に多くなりました。

これは、平成 25 年度文化振興県民意識調査の結果と同じですが、「文化財が適切に保存・継承されるとともに、地域において活用されるようにすること」(18.7%)については、約 7 ポイント回答率が上がりました。

なお、「その他」の内容は次のとおりでした。

- ・ 箱物は極力作らないこと
- ・ 箱物行政でないもの
- ・ 地域で文化的活動を行っている者が広く発表する機会が得られる場
- ・ 多くの県民が利用できる文化施設を充実させること
- ・ 三重県マラソンのように国体ではなく三重体(運動以外もふくむ)を開催し県

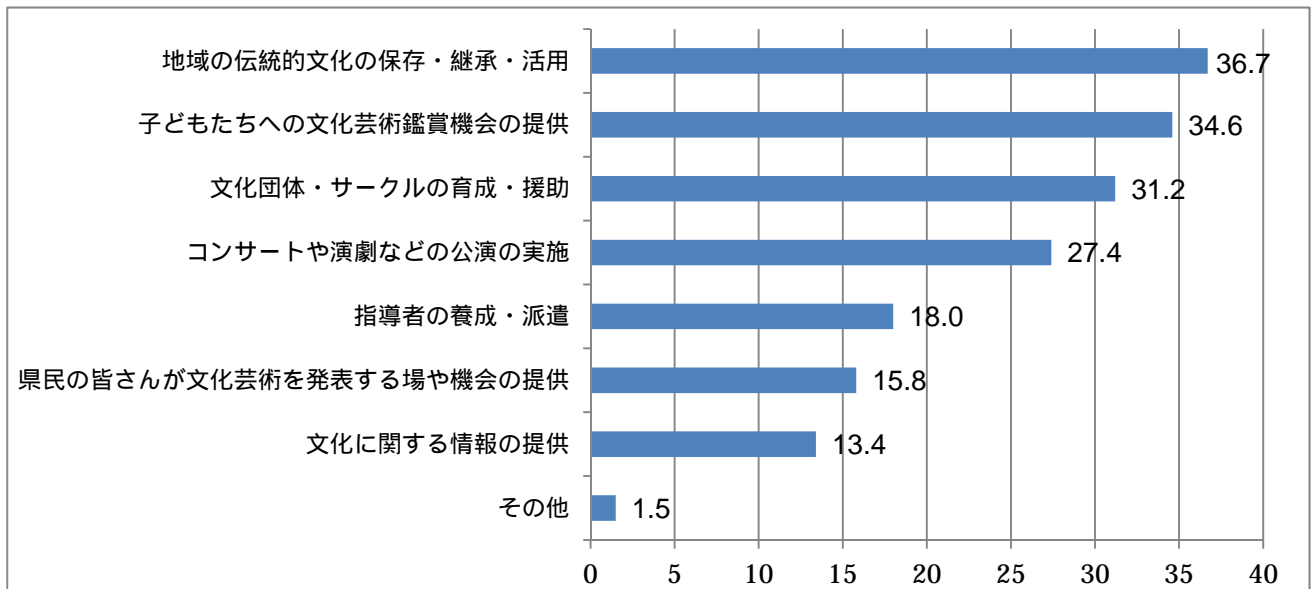
民を盛り上げる

- ・文化交流ゾーンだけでなく、県全域（特に南部）の人も、日常的に文化に触れ親しめるようにしてほしい

Q 1 2 県が県民の皆さんに対して行うべきサポートについて

文化芸術の担い手である県民の皆さんに対して、県はどのようなサポートをするべきだと思いますか。

（単位：％）



平成 25 年度文化振興県民意識調査の結果と同様、「地域の伝統的文化的の保存・継承・活用」（36.7％）と「文化団体・サークルの育成・援助」（31.2％）が上位を占めるとともに、それぞれの回答率が9～10ポイント上がりました。

一方で、「文化に関する情報の提供」（13.4％）については、約8ポイント回答率が下がりました。

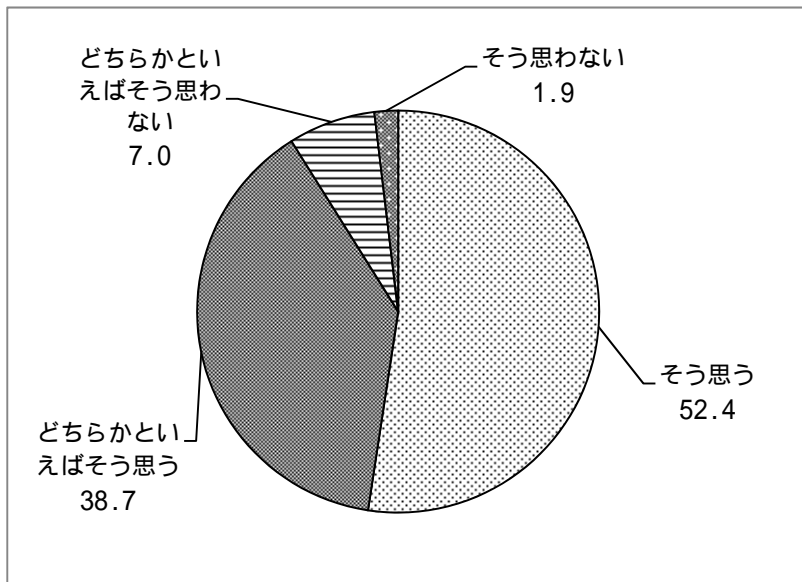
なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・地方在住の人が大きな町での文化活動を体験できるようにする
- ・県は、県民にとって時には不要ではないかと思われるので、市町への支援に徹すべきだと思います
- ・フィルムコネクションの育成
- ・別にする必要はない、押しつけがましくなるだけ、能力のある人は自ずと努力をする
- ・県南部地域への県立施設の建設
- ・東京、名古屋、大阪で開催されるような絵画展を開催
- ・根本的な教育の質の向上、マナーの育成、経済的豊かさの実現に対するサポート

Q 1 3 三重県に対する誇りや愛着について

三重県には全国的あるいは国際的に誇ることができる歴史的資産等があり、愛着を感じることができると思いますか。

(単位：%)



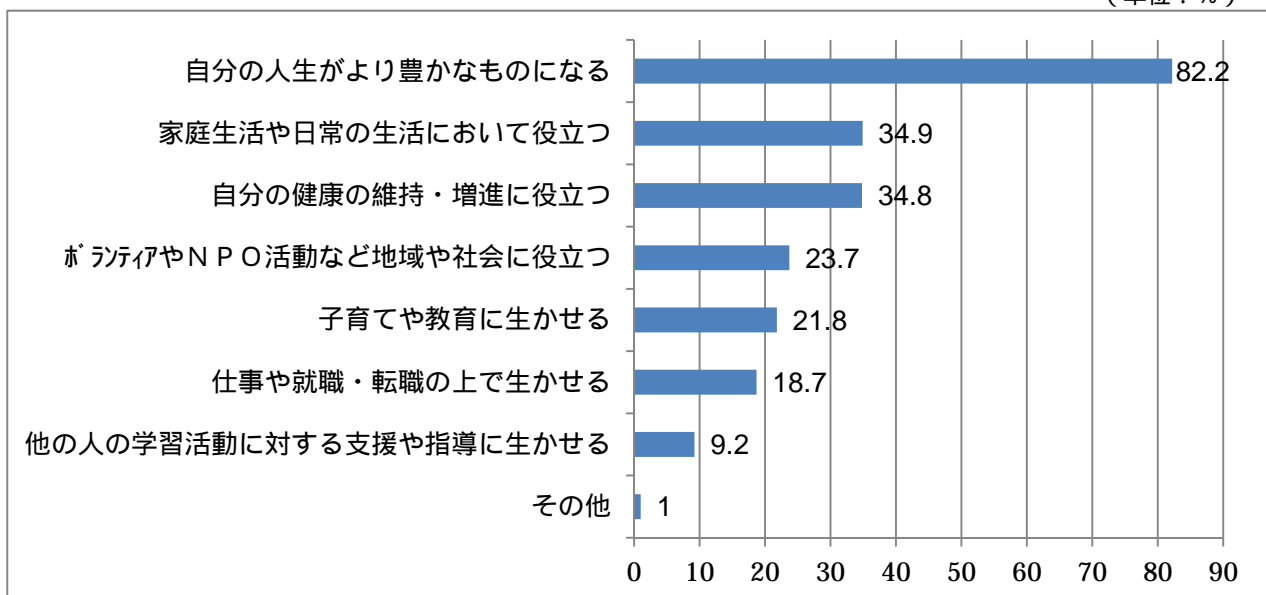
「そう思う」(52.4%)と「どちらかといえばそう思う」(38.7%)を合わせると約9割の方が三重県に誇りや愛着を感じているという結果になりました。

これは、平成25年度の神宮式年遷宮、平成26年度の熊野古道世界遺産登録10周年に加え、本年6月には伊勢志摩サミットの開催が決定されるなど、国内外のメディア等で本県のことが取り上げられる機会が増え、本県に対する関心が高まっていることが背景にあるのではないかと考えられます。

Q 1 4 生涯学習によってもたらされる効果について

生涯学習によって知識・技能や経験を身につけることの効果として、あなたが考えるものは次のうちどれですか。

(単位：%)



「自分の人生がより豊かなものになること」(82.2%)が特に多くなりました。これは、平成22年11月に実施した「生涯学習についての県民意識調査」(以下「平成22年度生涯学習県民意識調査」)においても、最も回答数が多かった項目ですが、今回は、さらに約40ポイント回答率が上がりました。

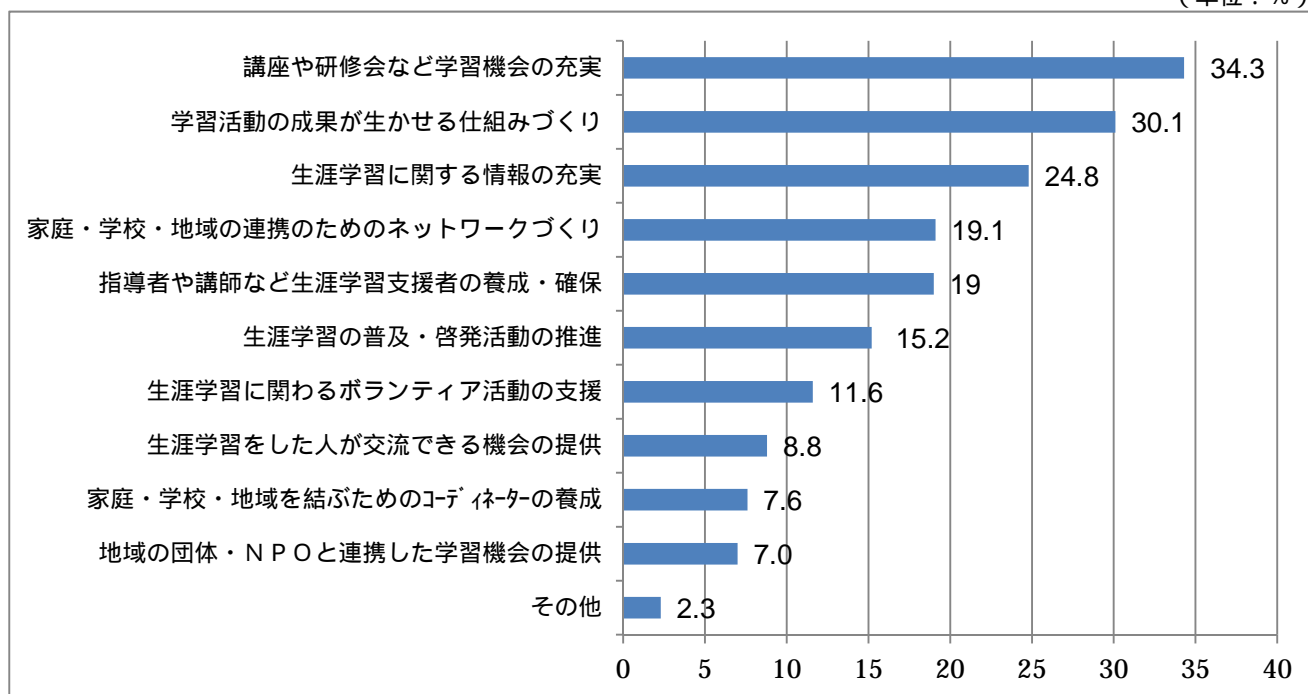
なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・ 将来、人材不足が予想される労働分野への備え
- ・ 他の人とコミュニケーションできること
- ・ 常に精進を重ねていく謙虚さ
- ・ 新しい友人が作れる
- ・ 楽しい
- ・ 民度の向上、マナーの向上

Q15 県が、今後、力を入れるべき生涯学習振興施策について

あなたがいつでもどこでも楽しく学び続けるために、県は今後どのような生涯学習振興施策に力を入れるべきだと思いますか。

(単位：%)



平成22年度生涯学習県民意識調査の結果と同様、「講座や研修会など学習機会の充実」(34.3%)と「生涯学習に関する情報の充実」(24.8%)が上位を占めました。

また、「学習活動の成果が生かせる仕組みづくり」(30.1%)は、約15ポイント回答率が上がりました。

なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・ 国や県の借金が多く、無駄な支出は避けるべき

- ・情報はネットや本などで入手できるため、県民が安価に利用できる工作室や PC ルームなどハードウェアの支援
- ・需要を知るためにも、生徒にアンケートをとるなどして講師の評価が必要
- ・交流できる機会の提供の際場所を無料提供していただけるとありがたい
- ・高校、大学への選択聴講（有料）
- ・企業と連携する
- ・生涯学習を实践できる場所を増やすこと
- ・近所でできる無料体験講座の提供
- ・いちいち県がすべきものではない、強いて言えば資金援助、現物支給ではなく税金の免除、負担の軽減
- ・学習場所の提供
- ・情報の公開（支援の内容、指導者の選定状況、ネットワークの組織図、コーディネータの要請方法と内容、議事録等公開、普及と啓発の活動内容、交流方法、交流場所の公開）
- ・県南部地域への県立施設の建設
- ・学習施設の充実
- ・学習する場所の提供（無料または低価格）